

【学校教育目標】 夢に向かって 自ら学ぶ 豊かで たくましい生徒

黒西中だより



TEL 048-768-5454

心のホット相談室 TEL 048-764-1110

<http://kuronishichu.style.coocan.jp/>



第 3 号

令和 8 年 6 月 1 日

生徒数		
1 年	87 名	3 学級
2 年	66 名	2 学級
3 年	83 名	3 学級
4 組	2 名	1 学級
5 組	1 名	1 学級
合計	239 名	10 学級

「水」から考える、支えてくれる方々への感謝の心

校長 田口 和也

6 月です。いつの間にか服装も長袖から半袖に替わり、半袖を着ていても日中は暑さを感じる季節となりました。例年では、6 月中に梅雨入りの時期が話題となり、7 月の梅雨明けとともに本格的な暑さがやってきます。年々ひどくなる「災害級の暑さ」がよく話題となりますが、私は近年の梅雨における降水量の少なさ（いわゆる「空梅雨」）も気になります。飲料水をはじめとして、「水」はとても大切な資源です。もちろん、集中豪雨等の災害も困りものですが、暑い夏を水不足におびえず、ゆとりを持って乗り切るためにも、今年の梅雨はある程度雨が降ってほしいと思います。

さて「水」とくると、我が家で以前あった出来事が思い出されました。その頃中学 1 年生だった私の長男が部活動から帰宅し、何か飲むものを探していたのですが、いつも作っている麦茶が切れており、ミネラルウォーターの買い置きもなかったのも、何も飲むものがないと私に訴えてきたのです。水道水を飲めば良いということを伝えると、水道水を直接飲むことに抵抗があるとの返答でした。私が子どもの頃は、水道の蛇口から直接飲んでいたことを考えると、この返答は驚きでした。しかし、考えてみると、いつの間にか浄水器やミネラルウォーターが出回り、スーパーでも専用容器があれば、無料でおいしい水が提供されるサービスが当たり前になっています。なにより、自分自身も、蛇口に取り付けた浄水器の「浄水」と「原水」を使い分け、水道水を直接飲用する機会は減っていました。社会の変化が生活に及ぼす影響の大きさを改めて感じる機会となりました。

このことがあった少し後に、テレビ等で水道水を飲料できると認識している子どもが減っているという報道がありました。私は先ほどの経験からこの事実をすぐに受け入れることができましたが、同時に残念にも思いました。なぜなら、以前、私が社会教育施設の職員として勤めていた頃、水をテーマとした主催事業の中で浄水場を訪れたことがあり、そこで、私たちに安全でおいしい水を届けるために、日々働いている職員の方々の思いや努力を知ることができたからです。今、ネット等で水道水について調べてみると水道水を飲むことについて様々な意見があることがわかりますが、どの意見も「日本は世界でもトップクラスの安全な水が水道水として提供されている」という事実は共通しています。安全な水という生活に欠かせない存在を手軽に得ることができる環境があるのも、これらの人々の働きがあるおかげです。そう考えると、日常的に飲む、飲まないは別として、飲料できる存在として水道水を認識することは、必要なのだと思います。

先月、本校で行われた薬物乱用防止教室では、講師として東京税関の方が来校され、薬物を海外から国内へ入れないための検査の大切さと取組を紹介していただきました。私たちのくらしは、水だけでなく、多くの人の支えによって成り立っていることに、改めて気づかされました。これらの人々に感謝して生活していきたいところですが、まずは、そのことに「気づく」視野の広さを持つことが大切です。その上で、これらの方々に感謝の心を持ち、日々を過ごしていきましょう。

【保護者の方々へ】学校の様子については、黒浜西中学校ホームページ内の「西中 Dialy」で日々発信していますので、閲覧していただくと幸いです。よろしくお願ひします。